

死者増加、05年は約10万人

怖い高齢者の肺炎

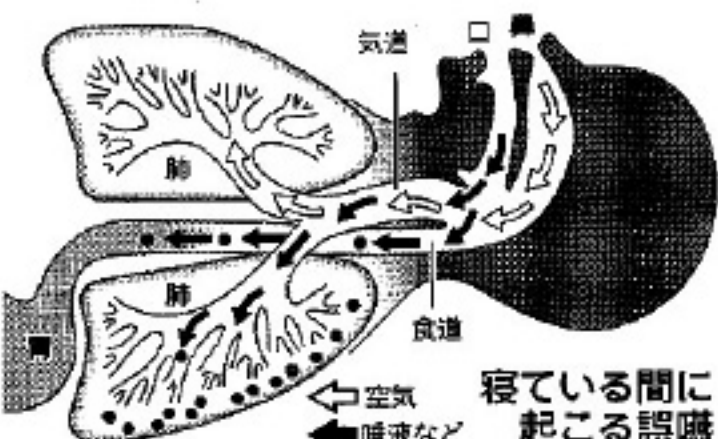
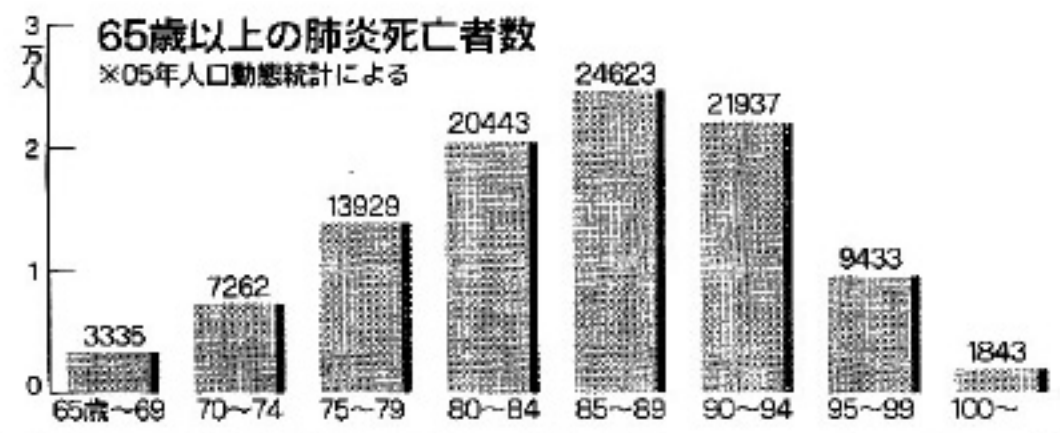
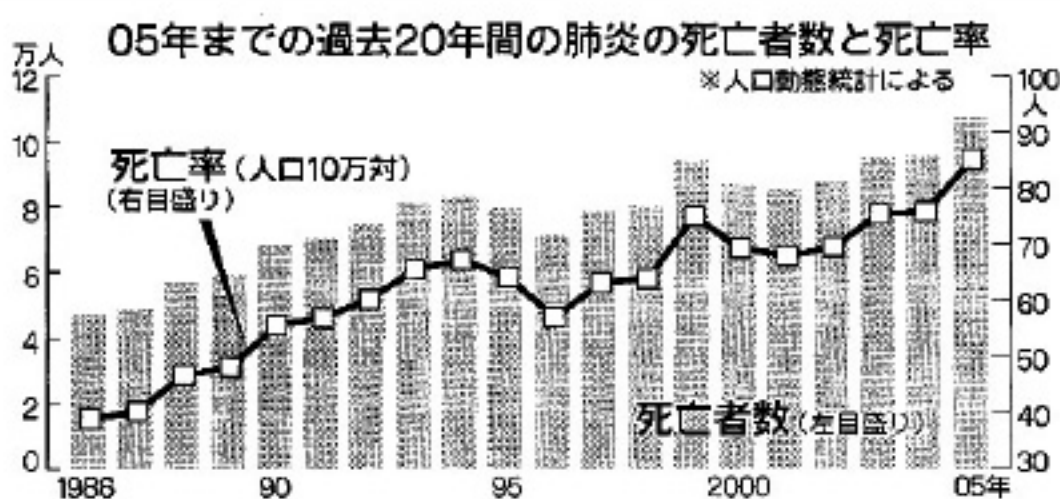
冬に風邪をこじらせると肺炎になる場合があり、注意が必要だ。人口動態統計によると、05年には10万7241人が肺炎のために亡くなった。死者全体の9・9%を占め、日本人の死因の第4

位だった。死者の90%以上が65歳以上のお年寄りだ。高齢化社会にとって危険な病気と言え、肺炎の実態や治療法、高齢者や要介護者のいる家庭で心がけたい点を専門家に聞いた。【扇沢秀明】

原因① 風邪で抵抗力落ち

予防接種と早期受診を

なぜ風邪から肺炎になるのだろうか。風邪はライノウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染が原因で鼻やのどなどに炎症が起き、くしゃみ、鼻水、のどの痛みなどを起こす。ウイルスの中でもインフルエンザウイルスは他の風邪ウイルスに比べて感染力が強く、症状も激しいので普通の風邪とは別格に扱われる。「これらのウイルス感染によって気道粘膜がダメージを受けると抵抗力が低下して、普段なら防げられる細菌を防げなくなり、肺に炎症を起こす場合がある。これが肺炎」と、中田クリニック（東京都千代田区）の中田純一郎院長は説明する。



高齢者や要介護者がいる家庭では、咳や痰、発熱、呼吸困難、胸痛、食欲不振、体重減少、夜間頻尿、夜間咳、痰が黄色いなどの症状が出た場合は、早めに病院に行き、「高齢者肺炎」と診断されることが多い。高齢者は食事で水分がとれなくなると、痰が乾燥しやすくなり、咳が出やすくなる。また、高齢者は免疫力が低下しているため、細菌やウイルスが侵入しやすい。高齢者は、咳や痰、発熱、呼吸困難、胸痛、食欲不振、体重減少、夜間頻尿、夜間咳、痰が黄色いなどの症状が出た場合は、早めに病院に行き、「高齢者肺炎」と診断されることが多い。

原因② 唾液や食物の誤嚥

姿勢や歯磨きが重要

高齢者や要介護者がいる家庭では、咳や痰、発熱、呼吸困難、胸痛、食欲不振、体重減少、夜間頻尿、夜間咳、痰が黄色いなどの症状が出た場合は、早めに病院に行き、「高齢者肺炎」と診断されることが多い。高齢者は食事で水分がとれなくなると、痰が乾燥しやすくなり、咳が出やすくなる。また、高齢者は免疫力が低下しているため、細菌やウイルスが侵入しやすい。高齢者は、咳や痰、発熱、呼吸困難、胸痛、食欲不振、体重減少、夜間頻尿、夜間咳、痰が黄色いなどの症状が出た場合は、早めに病院に行き、「高齢者肺炎」と診断されることが多い。

肺炎に気づかないことがある。風邪は治ったはずなのに、ぐったりして元気がない、食欲がないという場合は要注意だ。肺炎の原因菌のなかで最も多いのが肺炎球菌だ。日常的に存在するありふれた菌だが、最近抗生物質に耐性を持った肺炎球菌が増え、問題になっている。予防には肺炎球菌ワクチンが効果的で、接種すると5年間肺炎球菌による肺炎の予防効果が続く。中田さんは「65歳以上の人はインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの両方を接種した方がよい。ただし、1週間間隔を空けることと話す。肺炎球菌ワクチンは保険が利かないため、1回8000～9000円程度で、費用は病院によって異なる。補助が出る自治体もある。」

■腎臓病を考える都民の集い「腎臓病を考える都民の集い」が25日午後1時から、総評会館（東京都千代田区神田駿河台3の2の11）で開かれる。患者らで作るNPO法人「東京腎臓病協議会」が主催。小松康宏・聖路加国際病院腎臓内科医長が人工透析について、せんぼ東京高輪病院の管理栄養士、徳永圭子さんが食事療法について講演。パネルディスカッションには透析治療を受けている患者も参加する。入場無料。問い合わせは同協議会（03・3944・4048）。